allcinema

中共脱出（1955）

BLOOD ALLEY

メディア 映画
ジャンル 戦争　ドラマ
製作国　アメリカ
色彩　Color
時間　115分
初公開日 1956/04/06
公開情報 ＷＢ

【解説】

原作者フライシュマン自身による脚本が作家のものとすぐわかる拙さで、監督も大分てこずったと見える反共プロパガンダ映画。同情的な難民の描き方にもどことなくアジア人蔑視がのぞく。だが、映画が活動写真だった頃からの作り手ウェルマン、随所に叩き上げの作法を発揮して退屈はさせない。香港からアモイに向かう船に乗って拿捕されたワイルダー船長が独房のマットレスを燃やす。と、代わりに運び込まれたそれの中にはロシア軍服や銃が……という出だしは快調。逃げ出して案内役に連れられたのが、近海の小島の村チクシャン。その村長は村ごと香港に脱出する大胆な計画を打ち明ける。使うはただの川蒸汽。“血の小路”（これが原題）と言われる難関の海峡をボロ船で、しかも海図なしで渡れるとは到底思えないが、自尊心をくすぐられ、それに“もちろん”ヒロインの医師の娘キャシーが気になって、彼は舵取りを引き受ける。まず船奪取の計画を着々と進め、敵の哨戒艇を食い止める周到な罠も用意。抜き打ちの敵の視察場面など、幼稚な人民軍の描き方（船長は盛んに彼らのズック靴を臭いとバカにする）に不快になるが、愉快なコメディ・リリーフなどに救われ、いよいよ出発となる。家畜まで運び込まれ船内はごった返し、まるでノアの箱舟だ。党員のフェン一族も置いていけば粛清は免れないので連れてゆくが、彼らは食事に毒を盛り、大時化の時には船長の命も狙う（その嵐で音のかき消された外界から操舵室を捉える格闘場面は見事）。薪の補給のため坐礁船に立ち寄り、敵の砲弾を受ける展開もセットが丁寧に作られ、面白く見れる。問題なのはそこでフェンたちを置いていこうとして船長が一席ぶつお説教で、これは相当ナンセンス。船長ウェインは可もなく不可もなくだが、拷問に耐えるためついた独り言を言う癖がおかしい。どこにいても服の着こなしのいいバコールが素敵だ。

【クレジット】

監督	ウィリアム・Ａ・ウェルマン	William A. Wellman
製作	ロバート・フェローズ	Robert Fellows
原作	Ａ・Ｓ・フライシュマン	A.S. Fleischman
脚本	Ａ・Ｓ・フライシュマン	A.S. Fleischman
撮影	ウィリアム・Ｈ・クローシア	William H. Clothier
音楽	ロイ・ウェッブ	Roy Webb
出演	ジョン・ウェイン	John Wayne
	ローレン・バコール	Lauren Bacall
	ポール・フィックス	Paul Fix
	マイク・マズルキ	Mike Mazurki
	アニタ・エクバーグ	Anita Ekberg
	ジョイ・キム	Joy Kim

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.